

クリスマスの わき役たち①

アドヴェント第一週

2025/11/30

ルカ福音書1章5～25節

ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤ組の祭司にザカリアという人がいた。その妻はアロン家の娘の一人で、名をエリサベトといった。二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。しかし、エリサベトは不妊の女だったので、彼らには、子供がなく、二人とも既に年をとっていた。

さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、祭司職のしきたりによつてくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになつた。香をたいている間、大勢の民衆が皆外で祈つていた。すると、主の天使が現れ、香壇の右に立つた。

ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖靈に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。彼はエリヤの靈と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」

そこで、ザカリアは天使に言った。「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかつたからである。」…ザカリアはやっと出て來たけれども、話すことができなかつた。…

やがて、務めの期間が終わって自分の家に帰った。その後、妻エリサベトは身ごもって、五か月の間身を隠していた。そして、こう言った。「**主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。**」

不幸な祭司夫婦

- 「祭司」とは神殿で働くことを唯一許されている人たち
 - 彼らはモーセの兄アロンの家系に連なる者
 - 子どもがいなければその家は絶えてしまう
- 子どもがおらず高齢になっていた夫婦
 - 普通ならとっくに離縁していたはずだが、ザカリアはそうしなかった>エリサベトを愛していた
- 主に誠実に従いながら子どもを願っていた
 - 「二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。」
 - 「あなたの願いは聞き入れられた。」(天使)

不幸な祭司夫婦

- 「祭司」とは神殿で働くことを唯一許されている人たち
 - 彼らはモーセの兄アロンの家系に連なる者
 - 子どもがいなければその家は絶えてしまう
- 子どもがおらず高齢になっていた夫婦
 - 普通ならと
はそうしな
希望を捨てた
わけではなかった
 - だが、ザカリア
は死んでいた
願っていた
- 主に誠実に願っていた
 - 「二人とも神の前に正しい人で、主の揃と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。」
 - 「あなたの願いは聞き入れられた。」(天使)

信じられないお告げ

・特別なお役目に当たったザカリア

- ・祭司は組ごとに神殿の務めに当たっていた
- ・「祭司職のしきたりによってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。」

・聖所に現れた天使

- ・「主の天使が現れ、香壇の右に立った。ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。」
- ・主の怒りを招くようなことをしたのかと思った

・天使のお告げ

- ・「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。**あなたの妻エリサベトは男の子を産む。**」

生まれる子どもは特別な使命を持つ

- いわゆる“ナジル人”か？

- 「彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲ます」

- 胎内から聖靈に満たされる

- 「既に母の胎にいるときから聖靈に満たされていて

- 民を主に立ち帰らせる

- 「イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。」

- 主のために道を備える

- 「逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」

ザカリアへの印

・天使の言葉を信じられないザカリア

・「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」<願っていたはずなのに！

・ザカリアへの罰

・「あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかつたからである。」

・「ザカリアはやっと出て来たけれども、話すことができなかつた。…ザカリアは身振りで示すだけで、口が利けないままだつた。」

エリサベト

・エリサベトの妊娠

- ・「その後、妻エリサベトは身ごもって、五ヶ月の間身を隠していました。」
- ・本当に妊娠したのか確信が持てなかつた

・エリサベトの喜び

- ・「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」
- ・祭司の妻として子どもができなかつたことを「恥」と思い、責任を感じて辛い思いをしていた
- ・主はそのことを知つておられた

受胎告知

- マリアへの受胎告知
 - 「あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。」(1:28)
- 受け入れられないマリア
 - 「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」
- エリサベトが妊娠している
 - 「あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」(1:36-37)

マリア、エリサベトに会う

・急いでエリサベトのところへ行く

・「マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。」(1:39)

・エリサベトの胎内の子がおどる！

・「マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。」(1:41)

・エリサベト、マリアを祝福する

・「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。」(42, 3)

マリアは受胎を信じ、主を讃える

これらの出来事が教えること

- ・主のなさることは「**不思議**」である
 - ・ザカリア夫婦はイエスの母マリアを励ますために子どものいない不遇の時を過ごした
 - ・「わたしの神、主よ／あなたは多くの不思議な業を成し遂げられます」(詩編40:6)
- ・主は**不信仰**を戒められる
 - ・主は夫ザカリアに子どもが与えられることを告げたが、彼は信じられなかった
 - ・「その後、十一人が食事をしているとき、イエスが現れ、その不信仰とかたくなな心をおとがめになつた。」(マルコ16:14)

これらの出来事が教えること

- 主は憐み深く、慈しみに富むお方
 - 主に誠実であった二人を見捨てなかつた
 - 「主は憐れみ深く、恵みに富み／忍耐強く、慈しみは大きい。」(詩編103:8)
 - 生まれたこの名前は「ヨハネ／主は恵み深い」
- 主は人の心を大切にされる
 - マリアが聖靈によって身ごもつたことを信じるために、エリサベト夫妻を用いられた
 - エリサベトの心の痛みを癒された
 - 「人の心をすべて造られた主は／彼らの業をことごとく見分けられる。」(詩編33:15)

「主は今こそ、こうして、わたしに
目を留め、人々の間からわたしの
恥を取り去ってくださいました。」

ルカ福音書1章25節